

この AI は英文の資料を読み込んでいません。植物学の論文はほとんど英文で書いていますので、参照されていません。したがって、主要な研究成果は参照されていないのです。検索も限定的で不十分です。いくつかの質問が出されていますので、回答します。

**植物と人々の博物館**は NPO 法人自然文化誌研究会の施設です。山梨県小菅村内で、キャンプ施設とともに運営しています。

**森とむらの図書室**には約 8000 冊の書籍があります。国内外から購入およびフィールド調査の際などに収集しました。植物学関係を中心に、民族学、考古学、言語学、教育学ほか調理、哲学などです。数名の研究者からの寄贈書籍で構成されています。財団法人森とむらの会の資料は、継承して保管しています。一部は上野原市の NPO さいはら・びりゅう館に貸し出しています。

**腊葉庫**には海外学術調査（京都大学、東京女子大学、東京学芸大学など）で採集した雑穀や雑草他の腊葉標本、栽培試験で得た証拠標本があります。

**収集した種子標本**は、東日本大震災の際に、計画停電で種子庫が機能せず、また放射性物質の拡散を危惧して、急遽、イギリスの王立植物園キューのミレニアムシード・バンクに、約 1 万系統を移管しました。主に栽培植物在来品種や祖先植物です。もう、日本にはありません。収集に関するリストは公開しています。

植物学調査・実験や環境教育実践の**一次資料や民具**は保存、一部展示してあります。調査時の音声記録、スライドなども保存しています。文献は分類整理してあります。

書籍リスト、民具リスト、標本リストはホームページで公開しています。

2. ホームページは 3 つを維持しています。これらはリンクされており、国会図書館のデジタル事業に公開登録されているので、毎年 7 月 20 日頃に収録、蓄積されています。

自然文化誌研究会、主に野外環境学習活動

<http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

植物と人々の博物館、主に民族植物学の研究報告

<http://www.ppmusee.org/index.html>

生き物の文明への黙示録、木俣の個人ホームページ：研究成果のすべてが収録してあります。自選集全 7 巻も pdf で読めるようにしています。印刷出版はしません。無料ですが、著作権は保留しますので、引用元は記述してください。

<http://www.milletimplic.net/index.html>

3. 施設の利用は歓迎します。ご相談に応じます。

連絡先 木俣美樹男 植物と人々の博物館専任研究員

[kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

現地連絡先 黒澤友彦 自然文化誌研究会事務局長

[npo-inch@yahoo.co.jp](mailto:npo-inch@yahoo.co.jp)

4. **研究成果の検索**が不十分です。たとえば、栽培化過程の遺伝的研究は古典遺伝学を重要視してきました。他方で、当時、**最新の実験技術で DNA の系統分析**まで行って、キビなどの栽培化過程の考察をしていますが、検索には載っていません。